

2010-2011



ライオンズクラブ国際協会  
336 - A地区 2 R - 4 Z

2011年 **2**月号  
No. 407

# 西条

## 50周年記念事業

● 『命の授業』 講師:腰塚勇人先生



【 50周年記念事業 YE事業 特集号～後編～ 】

来日生 SHAI ちゃんとの思い出

SAIJO LIONS CLUB

SAIJO LIONS CLUB

2010-2011 年度

国際会長 シッドL・スクラッグス三世

モットー 「WE SERVE(われわれは奉仕する)」

テーマ 「希望の光」

336 - A地区ガバナー 宇高昭造

スローガン 「明るく、やさしく、心をこめて ウィ・サーブ」

キーワード 「希望」

西条ライオンズクラブ会長 徳増達史

スローガン 「ありがとう50年、友の絆でWE SERVE」

キーワード 「POSITIVE」

## 西条ライオンズクラブ 結成 50 周年記念事業《SHAI さよなら Party》報告

### 「Haere ra Miss SHAI」

Y E ・国際協調委員会 L ・盛實正人

昨年12月12日(日)来日、約5週間の日程で「藤田ファミリー」「花山ファミリー」宅に滞在したY E 来日生SHAIさんの「さよならパーティー」が、ニュージーランド帰国前々日の1月11日(火)に西条国際ホテルにて開催されました。

SHAIさんの挨拶の言葉は、日本で経験した思い出から始まり、途中出逢った人達との心のふれあい、温かさを走馬灯の如く思い出したのか、涙・涙・涙...の挨拶となりました。会場では、貰い泣きする場面も多く、語らなくても滞在中の思い出・出逢い・経験が会場に伝わってきました。挨拶後は、「マオリの伝統の踊り」を披露して頂き、ホストファミリーには内緒でお土産を用意するサプライズがあり、また涙・涙...の光景となりました。

SHAIさんの挨拶を受けて、今回のY E 事業のスケジュールを一番に考え担当・企画したY E ・国際協調委員長寺川治美Lも、涙の挨拶となり、この事業の素晴らしさ、またライオンズクラブ活動に感謝の気持ちを述べました。

最後に、世間ではタイガーマスク「伊達直人」の話題で持ちきりですが、ライオンズクラブは「虎」よりも強く素晴らしいボランティア活動をしている団体であると自負していると締めくくりました。

今年度のY E 事業を振り返ると、本当にライオンズクラブらしい、また結成50周年記念事業に相応しい事業が出来たと思います。 「Good Bye Miss SHAI」



マオリの踊り



凛々しい勇姿



みんなの心に、あたたかな思い出をプレゼントしてくれたSHAIちゃん、こちらこそ「ありがとう」です。



# 「 SHAIちゃんとの思い出 」

藤田桜子（小学4年生）

私は、シャイちゃんとのいろんな思い出を発表します。

まず、シャイちゃんが来るというのが分かったのは、じいじが外人のお姉さんが来るよ、と言ってくれて、私は「ドキッ。」としました。でも月に何回か、学校にも外人の先生が教えに来てくれていたので、嬉しい気持ちもありました。

次に、ニュージーランドから来るということが分かり、私は、顔が知りたくなりました。名前は、シャイラエ、年は17歳、それが分かりました。やっと、顔が分かりました。が、それもコピーの写真。そんな真っ黒な顔で、目も鼻も、分かりませんでした。

その次に分かったのは、12月12日に来るということです。私は、毎日指おり数えました。やっと今日がシャイちゃんに会える日です。午前中に迎えに行くのかな？って思っていたら、午後でした。私も、妹もとても楽しみにしていたので、「早く午後になれ～！」ってすごい興奮していました。やっと午後が来て、西条国際ホテルに迎えに行きました。行くと、もうみんな来ていて、私たちを待っていました。私は、シャイちゃんにあげるはずのハイチュウが緊張してなかなか渡せず、手の中でずっと握り緊めていました。シャイちゃんは、全く私のイメージと違い、髪の色は茶色、背は高くとても美人でした。私は家に帰ると、荷物運びを手伝いました。お部屋も紹介して、それからお寺を見せたり、氷見を探検しました。私の家は、めったにいろんな旅行に行かないので、シャイちゃんは暇じゃないかな～？って思いました。でも、松山城、京都、大阪のユニバーサルスタジオに行くことができました。シャイちゃんは、忍者、舞妓さんにすごく興味があり、忍者と舞妓さんのフィギアを買っていました。それに私は、シャイちゃんにたくさんのニュージーランドの方言、遊び、を教えてもらったりしました。

この今までの思い出、話した事、旅行をしたことは、一生大人になっても忘れません。私は、ニュージーランドのシャイちゃんの家ホームステイしてみたいです。

それに、シャイちゃんが帰ってもパソコン電話でいつでも話すことができます。私は、国際交流ができて、とても嬉しかったです。今は、シャイちゃんとお別れが一番寂しいです。



【 SHAI ちゃん さよならPARTY にて 】

藤田家を代表して私が御礼申し上げます。

小学三年生と年長さんの娘をもつ私が一番最初に、こんな大きなお嬢さんに「おかあさん」と呼ばれることに多少違和感があったのですが、実際のご両親の年令を聞いて快諾せざるを得ませんでした。好奇心旺盛な長女は、ますます好奇心が旺盛に。とても恥ずかしがり屋の二女は我々の心配に反して、一番シャイちゃんに懐き、まとわりつき、可愛がってもらい、この子が色々な場で、場を和ませてくれました。我々夫婦は、何年かぶりに英語を話し、両親、ひいばあちゃんは何十年も前に習った英単語を引っ張り出し、身振り手振り、ルー大芝のごとく、さぞかし脳の活性化に役だったのではないかと思います。彼女はご存知の通り、大変明るく、元気で私がホストマザーとして一番心配していたインフルエンザや病気にかかることなく元気に過ごしてくれました。日本食もなんでも良く食べてくれたように思います。年末年始の一番多忙な時期には、花山さん宅に御世話になりました。本当にありがとうございました。特に日中はどこにも連れ出してあげられない代わりに会長をはじめ、大勢のライオンズクラブメンバーが代わる代わる「餅つき」「和太鼓」「プラネタリウム」「着物での写真撮影」など、さまざまな体験させてくださり、感謝しております。先週には京都、大阪へ行ってまいりました。京都は小雪舞う中、駆け足での観光でしたが、「忍者」「舞妓さん」には特に興味津津で「舞妓さんの顔はなぜあんなに白いのか?」「忍者は誰に雇われているのか?」など、日本語でも答えるのに難しい質問に大変苦労しました。もし、メンバーの中で詳しい方がいらっしゃいましたら、是非とも説明をお願いいたします。

受け入れのお話しを聞いた時には、「1年で1番忙しい時期に何を考えているのか!」と、家庭崩壊かと思うほど、父を責めました。しかし今となっては「私達にSHAIちゃんとお別れしなくてはならない、悲しい思いをさせて・・・」とまたまた父を責めることになりそうです。

最後になりましたが、我々にこのような大変貴重な経験をさせてくださりまして本当に感謝しております。ありがとうございました。



【 藤田ホストファミリーの中でのSHAIちゃんの生活 】

原則として我が家の時間に合わせて生活してもらいました。

- |       |       |  |
|-------|-------|--|
| 6:30  | 起床・朝食 | 朝ごはん 和食も良く食べました。<br>ご飯に海苔を巻いて。帰国前にはお箸も上達しました。<br>パンの時は「MILO(ミロ)」を本人の希望で飲みました。                  |
| 7:00  | 身支度   |  |
| 8:00  | お寺へ   | ほとんど毎日どなたかが色々なところへ連れ出してくださりました。<br>数日は西条高校へも通い、楽しんでいました。英語や体育以外は「公文式」の文字のけいこを持たせてひらがな練習をさせました。 |
| 12:00 | 昼食    | うどん、親子丼など家族と同じものを。時々外「カド」で「ハバ-ガ-」も食べました。   |
| 16:00 | スカイプ  | ニュージーランドとの時差は4時間(NZが進んでいる) 家族との会話。   |
| 18:00 | 夕食    | 食事には「コーラ」かお水。<br>一緒にスーパーに行き、好きな飲み物を選んでもらいました。  |
| 20:00 | 入浴    | 我が家の子供達が入浴した後、シャワーだけでなく湯船にもついていた様子です。<br>洗濯物は、入浴時に洗濯機に入れてもらい一緒に洗濯しました。                         |
| 22:00 |       | 「おやすみなさ」と言って部屋に入りました。しばらくはパソコンの前に座っていたようです。  |

SHAI ちゃんの西条での1ヶ月を振り返りました。笑顔がいっぱいです



西条高校の皆さんにも  
御世話になりました



## 2010年冬期 YE 生派遣・受け入れ報告

YE・国際協調委員会 寺川 治美

2010年冬期 YE 生の派遣・受け入れ両方が一度に決まり、バタバタしてる間に早いもので1ヶ月間の派遣・受け入れが終わりました。

昨年の12月12日にニュージーランドより17歳の愛称シャイちゃんが来日して約1ヶ月が過ぎ無事ホームステイを終了して1月13日に帰国しました。

シャイちゃんは不安いっぱいに来日して、岡山駅に迎えに来た2人が中年の親父でまた不安が増したかもわかりません。しかしこちらの第一印象は非常に笑顔のかわいい素朴な、ちょっと大柄なお嬢さんと言う感じでした。今回ホストファミリーを引き受けて頂いた、藤田Lと花山Lファミリーの皆様には、非常に感謝しております。

このホストファミリー2家族が引き受けて頂いたことで今回のホームステイは成功した様なものです。

藤田家はお寺と言う日本伝統的な文化があり4世代同居と言う非常に日本を体験するには良い環境だった様に思いますし、又副住職ご夫妻が英語に堪能だったこともシャイちゃんが早く家族に解け込めたのではないかと思います。

又花山家も同じく4世代が近くに居るという環境で、忙しくバイクショップという御商売をされている藤田家とはまた違った環境ですし、シャイちゃんが解け込むには花山Lのキャラクターが非常に良かったと思います。

又偶然にも花山家には、YEで以前ホームステイをされて親しく交流の有るインドのシッダラス君が花山Lを慕ってニューイヤー休暇で来日されておりましたから、非常に忙しかったとは思いますが、シャイちゃんとの交流や言葉には少し良かったかもわかりません。

本当に2家族のホストファミリーの方々には、大変お世話になり有難うございました。

次回の機会がありましたら又是非宜しくお願いしたいです。

YE生の派遣は頻繁に行なっておりますが、YE生受け入れは15年ぶりで、現在の徳増会長が受け入れを行なっておりますので初めての経験でした。

シャイちゃんに十分日本を体験してもらおうスケジュールが組めたかどうか解りませんが、少しハード過ぎた様です。今回スケジュールを組むうえで、たくさんの方々色々な形でボランティア活動を行っていることを改めて知りました。道前太鼓は自分たちの練習の合間に、初心者無料で太鼓を教えますし、茶道の皆様もボランティアで子供たちに礼儀や茶道を教えます。又、今回通訳をして頂きましたエリスの会の方もボランティアで行って頂きました。西条高校にも授業参加させていただきましたが、常に留学生を受け入れているようです。

さまざまな形でボランティア活動をされている方が沢山おられることを知って、驕ることなく謙虚な気持ちでライオンズ活動を行なっていかなければいけないと少し反省致しました。

又塩出穂乃香さんの冬期YE生イタリア派遣も無事に12月20日に出発し1月12日に帰国されました、国が違えば色々な考え方や方法が違っている様で少し不安を感じた様ですが無事に貴重な体験をされて帰国されました。後日帰国報告会で貴重な体験話をして頂きます。

YE生の派遣・受け入れは、全世界で活動するライオンズクラブだから出来る奉仕活動の一つではないのでしょうか、シャイちゃんも穂乃香さんもこの機会を利用して貴重な体験してもらう事が出来たのではないかと思います。穂乃香さんにも多くの友人や家族がイタリアに出来たのではないかと思いますし、少なくともシャイちゃんには、日本の西条に、沢山のファミリーが出来たと思います。シャイちゃんにとって日本で一番好きな場所は西条になったのではないのでしょうか。



シャイちゃんも穂乃香さんもこのYEホームステイという貴重な体験をこれから生かしていただきたいと思います。又このホームステイを通じてYE生だけではなく、言葉・習慣の違ったYE生と寝食をともにしたホストファミリーも色々普段経験出来ない貴重な体験をされたのではないかと思います。あらためてホストファミリー・クラブメンバーの方々には、たいへんお世話になり有難うございました。

2月3日、4日の二日間で当クラブ50周年記念事業、腰塚勇人「命の授業」-今の幸せに気づくことから夢はひろがる-を西条市内中学校4校で開催した。思春期の真っ只中である中学生に何か少しでも“気づき”を感じてもらうことが出来ればというクラブメンバーの熱い想いで実現した事業であり、「少年式」という記念すべき日に各中学校の体育館で1、2年生を対象に開催された。講演の内容は腰塚先生が2002年にスキー事故で首の骨を折り全身麻痺になり、生きる気力を失い自殺も考えたが、家族や職場の上司、看護師らの支えでリハビリに励み、約4ヶ月で社会復帰できるまで回復した。その体験から、ケガを通じて命や周囲の人々の大切さを改めて知ったということを生徒達に伝えた。腰塚先生が「自分を必要としている人が必ずいる」「夢を持ち、自分を信じて努力を続けていけば必ず夢はかなう」「周りの人達のドリームメーカーになろう」と熱く語る姿に、涙する生徒達も少なくなかった。また、当日の腰塚先生のブログで我々を“カッコいい大人たち”と題し、地域の子どもの成長を本気で願い、奉仕の心を強く持つ大人達の集まりである、と高く評価していただき、いつか自分も同じ志の基に行動を共にできたらと書いていただいた。

我々の想いは中学生達にわずかでも伝わったのだろうか？その答えは我々大人達が判断すべきことでは無く、中学生一人一人が記念すべき「立志」の日にたまたま聞いた講演会で心に感じた通りであろう。

しかし少なくとも涙を流していた生徒達の心には“気づき”を与えることは出来たのではないだろうか。これからも50周年事業として「ありがとう」をテーマに多くの事業が行われる予定であるが、自己満足に終わることなく、地域の方々に感謝の気持ちを伝えていきたいと思う。

最後になりますが、この事業でお世話になりました各学校の先生方、教育委員会の方々、また、お世話になった全ての方々に「ありがとうございました」というお礼の言葉を述べ事業報告といたします。

## 西条北中学校長より

拝啓

向春の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、先日の少年式の記念行事「命の授業」の特別講演の実行に際し、ご尽力いただき誠にありがとうございました。徳増会長様の計らいで、腰塚先生の講演が聴けたこと、生徒たちにとりまして、非常に大きな意義がありました。腰塚先生の話をお聴きの生徒の感想です。

\*\*\*\*\*

【生徒の感想】先生の話をお聴き、今のこの瞬間を大切に生きていくべきなんだと気づきました。・・・(中略)・・・私の命があるのは両親のおかげであり、私が勉強できるのは学校の先生のおかげ。たくさんの人の支えによって今の私がある。そのことに“ありがとう”

\*\*\*\*\*

また、私たち教師も、命の大切さや、生かされていることの自覚、そして何をしなければならぬかを考える良い契機になりました。



このような、すてきな時間をいただいたことに、心の底より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

本来なら、お伺いして、お礼を申し上げるところでございますが、書面にて失礼させていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。平成23年2月7日



～腰塚勇人(こしづかはやと)先生プロフィール～

1965年 神奈川県生まれ・元体育教師・養護教員  
 スキーでの大事故をきっかけに全身マヒの体。  
 その後、懸命のリハビリにより社会復帰できるまでに回復し、事故をきっかけに人生も人生観も大きく変化

2010年3月 教職を辞し、現在は「命の授業」の講演を通して命の大切さを訴えている。

2010年7月 テレビ系「奇跡体験アノリバー」出演

腰塚さんのお話を聞いて、手足が動かなくなるということは、普段当たり前に行っている、一人でご飯を食べることや、着替えをすることができないことで、本当につらいことなんだなと思いました。そして手や足を動かすことは決して当たり前のことなんかじゃないということに改めて感じました。

腰塚さんのお話を聞いて思ったことは、当たり前に来る、今日、明日、毎日が当たり前でないこと……。明日が来る保障はないってことです。改めて考えてみれば、そうだな……。と思いました。今の時間を大切に、「後でいいか。」と考えずに、今日という一日を大切にしていきたいです。

ぼくは、今日の腰塚先生の話聞くまでは、両親などの周りの人に対して、全く感謝していなかったけど、先生の話聞いたら、周りの人たちにはいっぱい感謝した方がいいと気づかされました。今日話をしてくれた腰塚先生にはいっぱい感謝しています。

～腰塚先生のブログより～  
【カッコイイ大人たち】

「命の授業」の腰塚勇人です

一昨日、昨日と愛媛県西条市内4中学で講演をさせていただきました

それぞれの学校ごと生徒の皆さんに特色がありとても良い緊張の中、話をさせていただくことができ学びの多い2日間でした

そして各学校の校長先生を始め、諸先生方には講演当日までたくさんの準備をして頂いたこと心から感謝していますそれは今回の主催は西条市ライオンズクラブの方々でした私の4校分の講演料から宿泊費、交通費まで全てライオンズクラブの皆様が会費から出してくださいました

誰のために  
地域の子どもたちの成長を願って

ライオンズクラブの皆様の活動内容やそのクラブの趣旨を詳しくは知りませんが、地域の方々への奉仕の気持を強く持っていらっしゃる志のある経営者の方々の集まりでした

正直全員や全ての組織がそうではないかも知れませんが、しかし、昨日、一昨日と集まってくださった方々は地域の子どもたちの事を本気で考えている方々ばかりでした

私もいつか同じ志の基に活動が一緒に活動ができれば・・・そんなカッコイイ大人の集団でした・・・(以下省略)最幸な2日間でしたライオンズクラブの皆さん、学校の先生方そして生徒の皆さん、本当にありがとう。西条にまた伺わせてください

感謝をこめて



腰塚先生の「命の授業」講演会を開催するにあたり、はじめは青少年の皆さんの為に聞いて欲しいとの思いからでしたが2日間を通して、命の授業を受ける機会を与えられた我々も、先生方も、また、保護者の皆さんの中にも、胸の奥に何らかの気づきがあったようです。先生から投げかけられる「あたたかい言葉」、本当にかけて欲しかった言葉を聴くたびに、自然に子供たちも、大人たちの目にも涙が溢れていました。

そして、自分と向き合い、今からまたがんばろう！と、まだ遅くない！というパワーが込み上げてくるのです。

「ありがとう、腰塚先生」

去る、2月12日(土)今治国際ホテルにて行われました【今治サーチングライオンズクラブ結成5周年記念大会】に花山ZCをはじめ、福島幹事、高橋ZCA、土居の4名にて出席してまいりました。記念式典では、クラブの本年度スローガン『心をひとつにウィサーブ』で、クラブ会員全員が一年間進めてこられた奉仕活動の紹介があり、宇高地区ガバナーより賞状が授与されました。

その後会場を変えて、青野圭子さんの素晴らしい箏の演奏と、今治明德短期大学 真鍋誠子教授の「みんながヘルプマン」と題した記念講演がありました。全員でジャンケンする場面もあり、和やかな中にも健康と介護を考えさせられる講演でした。また祝宴では、カラオケ大会で大いに盛り上がり、女性クラブらしい華やかな祝宴となりました。

我が西条ライオンズクラブも、もうすぐ結成50周年記念大会です。皆様方のいっそうのご協力をいただけますようお願い申し上げます。



今年度も、神拝小学校5・6年児童より、31作品の応募をいただきました。クラブ審査の結果、最優秀作品2点、優秀作品4点を選び、集会の中で表彰式を行いました。

【編集後記】

“春は名のみ風の寒さや”、まさに早春賦の歌詞がぴったりの季節となり、我が西条ライオンズクラブでは50周年記念事業の追い込みの時期を迎えて、各委員会の動きが活発になってきました。先日YE生のシャイさんが無事本国に帰られ、また、2月第2例会ではイタリア訪問をしてきた塩出ほのかさんの帰国報告があり、彼女の堂々としたスピーチに感心させられました。それにしても先般のニュージーランド地震の惨状を思うにつけ、よくぞお二人とも無事にホームステイを終えられたものと神に感謝したくなりました。本当によかった、よかった。 PR・広報委員 松浦 裕

発行所 ライオンズクラブ国際協会 336A地区 2R4Z  
西条ライオンズクラブ  
事務局 〒793-0027  
西条市朔日市 779-8  
西条商工会館3F  
TEL (0897) 56-3980  
FAX (0897) 56-9251  
E-mail saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp

発行者 会長 徳増達史  
幹事 福島 譲  
PR・広報委員長 近藤基弘  
編集委員 越智英明 ・ 加藤 茂  
松浦 裕 ・ 原 育雄  
高木和幸

例会日 第2・第4火曜日 (変更になりました)  
例会場 西条国際ホテル ( " )  
印刷 西条ライオンズクラブ事務局